



日野市立カワセミハウスは旧環境情報センターの機能と地区センター機能を融合して平成29年4月1日に誕生しました。このカワセミハウス通信は日野市の環境に関する情報に加え、カワセミハウスで行われる活動や開催予定の行事・イベントなどの情報を発信していきます。

第2回浅川アユまつりが開催されました 来場者8,500人！ 大盛況でした

8月13日（日）、浅川ふれあい橋付近にて「第2回浅川アユまつり」が開催されました。

日野市には市域の北側を多摩川、中央には浅川が流れ、これらを水源とする用水路が今でも総延長116kmを超えて残り、古くから人々の暮らしに「水」が大きくかかわってきました。

このイベントは、参加者が日野市の豊かな水辺に親しむことで、水辺環境や生物多様性の恵みについて考える機会とし、より多くの人々が日野市の水辺の魅力に気付く、川に親しんでいただくことを目的として、東京都内水面環境活用施設整備事業補助金を活用して実施しました。

また、「自然環境の保全」という大きな方向性を共有する日野市と多摩川漁業協同組合日野支部が連携して事業を展開することで、環境保全の推進と漁協の振興を図ることも狙いとしています。

イベントの内容については、多摩川漁業協同組合日野支部の協力のもと、ピストン釣りやつかみ捕り、伝統漁法体験やアユなどの伝統料理の試食会を行いました。また、浅川潤徳水辺の楽校推進協議会や日野市商工会、日野市観光協会などにもご協力をいただき中、当日は天候にも恵まれ、大きな事故や怪我などもなく、無事にアユまつりを終えることができました。

今年の第2回アユまつりには、第1回の昨年を2,000人以上上回る約8,500人の方が来場し、大盛況でした。

今回のアユまつりは、昨年も多くの方にご来場いただいたことから、会場を広げ、アユの塩焼きや釣り体験をしていただく方の数を大幅に増やしての実施となりました。

参加した皆さんのご意見の大方は、「今後釣りなどの川遊びをしてみたい」「アユが美味しかったのでまた川魚を食べたい」「日野の水辺の豊かさを知ることができた」など、このアユまつりが水辺の環境や川魚に親しむきっかけとなっていることがうかがえました。

日野の豊かな水辺環境を存分に活用し、PRすることができるこのアユまつりは、「水の郷」と呼ぶにふさわしい日野市ならではのイベントであり、今後も実施して行きたいと考えています。



浅川で遊ぶ

「黒川かわせみサロン」がスタートしました

黒川や吹上地域の周辺にお住まいの高齢者の方を中心に、だれでも気軽に参加できるふれあいの場「黒川かわせみサロン」がスタートしました。

「黒川かわせみサロン」は“ふだん地域とのつながりが希薄になりがちな高齢者の方々と、気軽に楽しく交流できる場を作りたい”という主催者である黒川かわせみサロンのメンバーの強い気持ちと、カワセミハウス協議会、近隣の自治会や老人クラブ、市内の大学、日野市社会福祉協議会や日野市地域包括センター、市、市民の協力で実現しました。サロン開催のチラシは実践女子大学の学生たちがつくりました。

第1回目のサロンは、9月5日（火）午後2時から4時までカワセミハウスで開催されました。秋雨前線と台風の影響で前日まで不安定なお天気でしたが、それを跳ね除けるような好天に恵まれ、100名近い参加者で大盛況でした。サロンのオープニングイベントとして「民謡ライブ」が行われ、参加した方も一緒に歌ったり大いに盛り上がりました。

その後、椅子に座ったままのストレッチやお茶とお菓子のおしゃべりタイムなど楽しい時間を過ごし、最後は手作りの歌集を配り、歌の指揮者とギター、三線でみんなで好きな歌を歌い締めくくりました。60年ぶりの同級生と隣り合わせになった方がいて来月もここで会いましょうと約束したすてきなお話もありました。

「黒川かわせみサロン」はこれからも毎月第1火曜日の午後開催されます。参加費は100円です。皆さんの参加をお待ちしています。



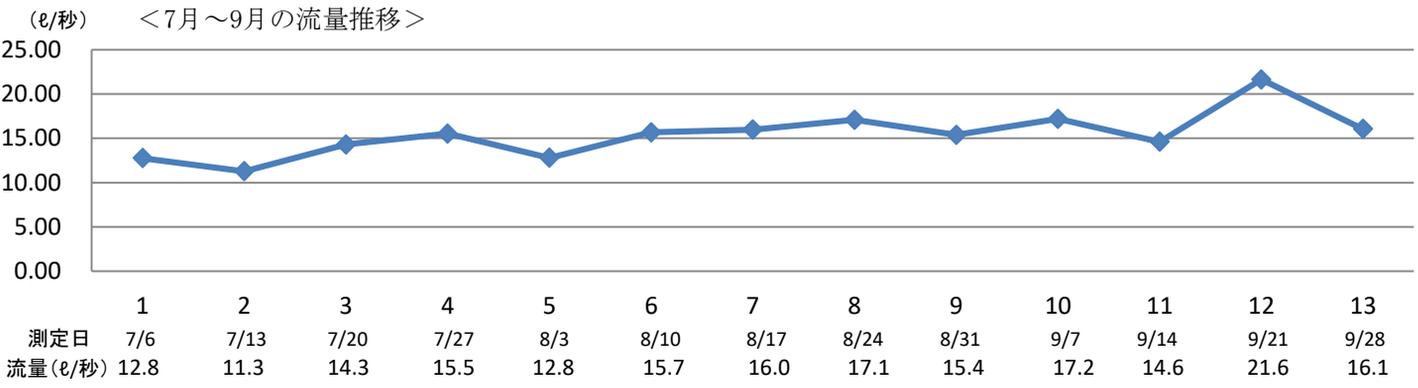
サロンの様子

黒川清流公園の水路での湧水量測定結果 7月～9月

カワセミハウスでは4月から毎週木曜日の朝、黒川清流公園あずまや池出口の水路で湧水量測定を実施しています。水路幅、水深、水路100cm当たりの流速を測定し、これらのデータをもとに、1秒当たりの流量を算出します。また水温や電気伝導率も測定、湧水量に大きな影響を与える降水量についても、前回測定日から今回測定日前日までの7日間の八王子地区降水量（mm）を参考にしています。

4月から9月の1回当たり平均流量、月間推定流量、月間降水量は下表の通りです。

測定月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1回当たり平均流量(ℓ/秒)	11.4	9.3	12.2	13.5	15.4	17.4
月間推定流量 (t)	29,550	24,910	31,620	36,105	41,194	45,049
月間降水量 (mm)	113	70	97	125	176	158



日野市の野鳥たち (その4) ~冬鳥 パート2~ 日野市立カワセミハウス 村岡明代

日野市には何種類の野鳥がいるのでしょうか。ちょっと難しい質問ですが、「日野市で過去に1度でも確認されたことのある鳥」ということでお答えすれば、日野市が行った「生物多様性地域戦略基礎調査(平成27年度)」で、これ以前に公表された9つの文献により日野市内で確認されている鳥類は217種とあります。このデータを更に2つの文献で補完した結果、日野市内で確認されている鳥類は218種(2016年10月現在)です。このリストから、個人的な観点ですが「ほぼ毎年見られる鳥」を抽出すると、留鳥(1年中いる鳥)が40種、夏鳥(夏になると外国から渡ってくる鳥)が9種、冬鳥(冬になると外国から渡ってきたり高い山から下りてくる鳥)が32種でした。つまり、夏で約50種、冬で約70種の野鳥が、日野市で暮らしているということになります。

冬になると外国から渡ってきたり高い山から下りてくる鳥を「冬鳥」といいます。今回はこのコーナーでまだ紹介していない冬鳥を何種類かご紹介します。いずれも、雑木林や草原などでほぼ毎年見られる冬鳥です。

ルリビタキ(スズメ目ヒタキ科)
日本では主に本州中部以北の高山や北海道の林で繁殖し、冬になると南の地域や標高の低い林にやってきます。日野市では主に丘陵地の雑木林で見られますが、黒川清流公園などの崖線の林でも見られることがあります。オスは背中が美しい瑠璃色で、体が小さく円らな目でとてもかわいらしい小鳥です。



カシラダカ(スズメ目ホオジロ科)
シベリアなどの北国から渡ってくる冬鳥です。河原や農耕地、林縁などの開けた場所を好みます。日野市でも多摩川や浅川の河原でよく見られ、群れでいることが多いです。ホオジロに似ていますが、頭に短い冠羽があるのが特徴です。鳴き声もホオジロにとってもよく似ていて、「チチ、チチ」と細い声で鳴きます。



アオジ(スズメ目ホオジロ科)
本州中部以北で繁殖し、冬になると暖地へ移動して雑木林や市街地の公園などにもやってきます。オス、メスともに体の下面が黄色く美しいのですが、藪の中にいることが多くて、なかなか姿を見ることが出来ません。しかし、数は少なくないので、低い藪の中から「チッ、チッ」という声を聞くことが出来るでしょう。



シメ(スズメ目アトリ科)
日本では主に北海道の林で繁殖し、冬になると本州以南の林にやってきます。日野市では、丘陵地の雑木林のほか、市街地の公園などでも見ることが出来ます。スズメより一回り大きく、太って見えるのが特徴です。木の高いところで「チッ、チッ」とアオジよりも強い声で鳴くので、比較的見つけやすい鳥です。



(写真提供：小久保雅之氏)

市内小学生の保護者を対象とした「温暖化の影響に関するアンケート」結果です

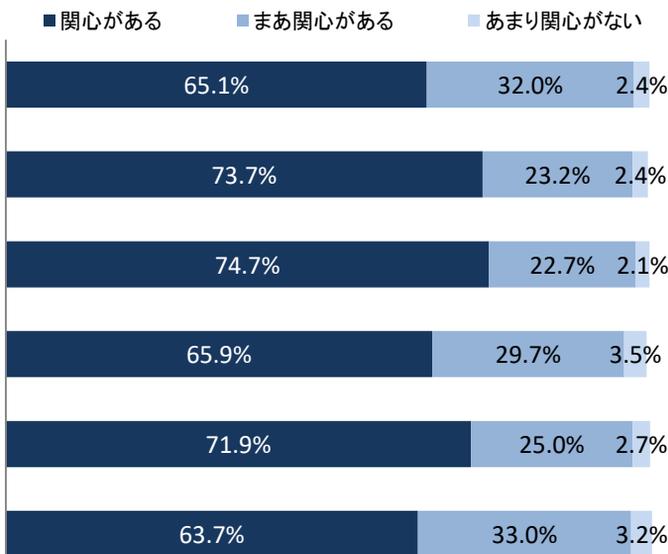
主催：日野市環境基本計画推進会議CO2グループ

6月17日に実施した「平成29年度エコキング夏」のアンケートでは、同時に保護者の方々を対象とした「温暖化の影響に関するアンケート」も実施し、地球温暖化によって引き起こされる自然や暮らしへの影響について関心度合をお聞きしました。

アンケートに答えていただいた保護者の方は全体で4,860人。内訳は女性30代以下1,806人、女性40代以上2,469人、男性585人でした。下記のグラフは全体の回答を集計した結果です。

集計結果をみると、温暖化の影響についての関心度はどの項目も高く、特に③1日に400mm以上の大雨の回数が増えていること、②今後真夏日の日数が増えることなど、現時点でも身近に実感できる事象への関心度が高くなっています。一方、①食糧問題、④サンゴ礁の消失といった近未来の事象については、まだ切実感がそれほどないためか、関心度はやや低くなっています。また、⑤大気汚染の原因であるPM2.5が温暖化に関わっていることがわかったということにも関心が高くなっています。

- ①温暖化による気候の変化でリンゴが北海道でしかとれなくなったり、海水温の上昇で漁獲高が減少するなど食糧問題が起きる可能性があります。
- ②温暖化で21世紀末に日本の真夏日の日数が、今より53日位増えるという予測があります。
- ③温暖化により異常気象が発生しています。日本でも1日に400mm以上の大雨の回数が増え、2011年には38回を記録。2015年には鬼怒川が氾濫するなどの被害が出ました。
- ④温暖化がこのまま進むと2070年代には、日本近海のサンゴ礁が消えてしまうという予測があります。サンゴ礁は地球の海洋面積の0.6%程ですが、海の生物の1/4が生息しているといわれ、無くなれば水産資源や観光産業が打撃を受けることになります。
- ⑤大気汚染を引き起こす微小粒子PM2.5が原因で世界中で多くの方が被害を受けています。また、最近の研究で、PM2.5に含まれる酸化鉄が温暖化に関わっていることがわかりました。
- ⑥温暖化の主な原因はCO2ですが、このCO2を最も多く出しているのは中国です。2番目はアメリカで、日本は5番目になっています。



*「回答なし」があるため合計が100%にならないケースがあります

9月9日 イオンモール多摩平の森でライブペインティングのイベントが開催されました



ライブペインティングスタート！



だんだん絵ができていっています

9月9日（土）10：00～12：00 イオンモール多摩平の森 ステージゲートでライブペインティングイベント「版画家 蟹江杏さんと一緒にみんなで大きな絵を描こう！」が開催されました。

このイベントは、カワセミハウスを核として、日野市出身の版画家 蟹江杏さんと意欲ある市内の中学校生徒およびカワセミハウス協議会などとの協働のもと、次世代に伝えたい日野市の自然環境をテーマに日野市やカワセミハウスのイメージを具現化するロゴマークやシンボル、絵本などの作品を創るコラボ事業の一環として開催したものです。

当日は天気にも恵まれ、1歳から小学6年生まで50名以上の子どもたちが集まりました。みんなやる気満々です。

最初に蟹江さんから当日描く絵のコンセプトやイメージの説明があり、蟹江さんが描いた少女像の下絵をもとに、子どもたちが様々な形や色を使って自由に描いていきます。コラボ事業に参加している中学生も子どもたちを指導しながら絵筆をふるっていました。

最後に蟹江さんやスタッフ、中学生たちが細かい部分の形や色を調整して、作品を仕上げしていきます。カラフルな色とユニークな形が集まった素敵な少女像ができあがりました。この作品はコラボ事業の絵本づくりなどに反映されます。

できあがる絵本が楽しみです。



完成した絵の前に記念撮影

■7月～10月前半の活動報告

7月23日(日) みんなの環境セミナー「黒川清流公園で昆虫採集をしよう！」開催

7月23日(日)9:30～12:00、日野市の昆虫について学ぶ環境セミナーを開催しました。講師は日野の自然を守る会の森川正昭氏です。参加者は親子12組31名(保護者15名、児童16名)でした。カワセミハウスの集会室で日野で見られる昆虫たちの話を聞き、標本や開催中の「日野の昆虫たち」写真展を見て、その後黒川清流公園に移動、公園でカブトムシやハンミョウ、いろいろな蝶、アリジゴクなど捕まえた昆虫たちについて講師が解説、子どもたちは熱心に耳を傾けていました。捕まえた虫たちは観察後公園に放しました。参加者から「いろいろな虫がいて面白かった」「またこういったセミナーを開いてほしい」といった声が聞かれました。



黒川清流公園で昆虫観察

7月20日(木)～25日(火) カワセミハウス写真展「日野の昆虫たち」開催

7月20日(木)～25日(火)、みんなの環境セミナー「黒川清流公園で昆虫採集をしよう！」と連動して、カワセミハウスを会場として開催しました。日野の丘陵地や河川敷に生息する昆虫たちの生態を、日野の自然を守る会の森川正昭氏が撮影した迫力ある写真36枚で紹介しました。見学者からは「大きい写真で細かいところまでよくわかり驚いた」「野外で実際に観察してみたい」「いろいろなテーマで写真やパネル展があると嬉しい」といった声が寄せられました。

9月26日(火)～10月5日(木) カワセミハウス写真展「日野の魚たち」開催

9月26日(火)～30日(土)、カワセミハウスを会場として開催しました。よく見られる魚や環境の変化などで今ではほとんど見られなくなった魚、ドジョウやナマズの仲間、エビやカニの仲間、外来種など水生生物の研究者鶴田大三郎氏が撮影した写真で紹介しました。

* 10月後半～12月の行事・イベント予定 *

10月21日(土) みんなの環境セミナー「里山づくり」

雑木林ボランティア講座の公開講座。9:30～15:00開催。講師は明治大学農学部教授倉本宣氏。午前はカワセミハウスで里山づくりについて講演会、午後は黒川清流公園で植物観察です。10月1日発行の広報「ひの」でお知らせしました。

11月25日(土) みんなの環境セミナー「みどりと水の原風景 みてみて！程久保川」

日野市環境基本計画推進会議みどりグループ主催で13:30～17:00開催。日野市に源流をもつ程久保川の流域を歩いてみどりとのつながりを探ります。11月1日発行の広報「ひの」でお知らせします。

11月下旬 カワセミハウス写真展「日野の植物」

日野の自然を守る会植物研究グループが昨年秋に発行した「次世代へ残したい日野市重要自然地域の植物相」より市内で見られる植物を紹介します。11月15日の広報「ひの」でお知らせします。

12月7日(木) みんなの環境セミナー「黒川清流公園の冬を探そう」

今期2回目の市民環境大学の公開講座。講師はカワセミハウス館長 東京農工大学名誉教授小倉紀雄氏。初冬の黒川清流公園で、冬に見られる野鳥の観察や豊富な湧水の大切さを楽しく学びます。11月15日発行の広報「ひの」でお知らせします。

★オクトーバーフェスト 開催★

“こだわり” “つながり” “チャレンジ” をコンセプトとしてカワセミハウス協議会が開催する地元ブランド「TOYODA BEER」を使った祭りです。協議会メンバーの活動紹介や写真展、ビールや焼きそばなどの飲食ブースもあります。

日時：11月4日(土) 13:00～17:00

会場：日野市立カワセミハウス

皆さんお誘いあわせの上、是非ご来場ください！

■■カワセミハウス 年末年始の休館日は 12月29日(金)～2018年1月3日(水) です■■

《カワセミハウス施設概要》

開館時間：9:00～21:30

休館日：毎週月曜日、年末年始(月曜日が祝日の場合はその翌日)

情報発信ラウンジ：環境・地域のコミュニティの場や、散策時の休憩所としてご利用できるフリースペース

オープンキッチン：IHクッキングヒーターやオープンレンジを常備

集会室：会議等で利用できる集会室3室(各室約30名収容)

可動式パーティションを取り払い大きな部屋として使用可能

その他、授乳室、芝生広場もあります。

使用料：集会室1・2・3とも

午前(09:00～12:00) 300円

午後(13:00～17:00) 400円

夜間(18:00～21:30) 350円

全日(09:00～21:30) 1,050円

*集会室は1室ごとの料金です。

*環境市民団体や自治会等は使用料が減免になる場合があります。詳しくはお問い合わせください。

*集会室以外は無料で利用できます。

カワセミハウスは地域のコミュニティの場として集会室や情報発信ラウンジ等をご活用いただくことができます。

申請方法：使用日の属する月の3か月前の1日(各月最初の開館日)から使用当日までにハウス窓口に使用申請書を提出

*電話での仮予約も可能ですが仮予約後7日以内に窓口申請が必要です。

発行 日野市立カワセミハウス

〒191-0052 東京都日野市東豊田3-26-1

Tel/fax: 042-581-1164

Eメール: kawasemihouse@jcom.zaq.ne.jp